

ごあいさつ
「節子の遊び心がひそむ小さな森」
～ひっそりとたたずむ生き物たち～
《令和8年7月14日(火)～11月1日(日)》

画家・三橋節子は、道ばたの野草や木、そのまわりにいる小さな虫たちを、静かに見つめることが好きでした。

節子が描いた作品をよく見ると、草木のすきまに、小さな形や色がひっそりと見えてきます。

木の幹や枝のあいだ、落ち葉の下にも、小さな虫たちがかくれています。ふだんの生活の中では気づかない、そうした小さな命のすがたを、節子は絵の中にひっそりと描きました。

それは、虫たちの体の形であったり、風にゆれる草の動きであったり、森や土のおいを思い出させるような色であったりします。節子は、これらの小さな命に話しかけるような気持ちで、やさしく、そして注意深く観察していました。

今回の展示は、野草や樹木、小さな虫たちが登場する作品を中心に、節子が感じた「森の物語」をたどります。

少し離れて全体をながめたり、近づいて細かいところをさがしたりしながら、ゆっくりご覧ください。絵のすみっこに、思いがけない生き物のすがたを見つけるかもしれません。今まで気にとめなかった植物の形や色が、新しい発見のように感じられるかもしれません。

会場の中を歩くときは、森の小道を散歩するような気持ちで、一枚一枚の絵と向き合ってみてください。

子どもも大人も、それぞれの国や言葉は違ってても、自分の目と心で「小さな森のひみつ」を見つけていただければうれしく思います。

三橋節子美術館